



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。http://www.amsl.or.jp

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



## ●今度はちゃんと育つか？

### ータマイタダキイソギンチャクの産卵ー

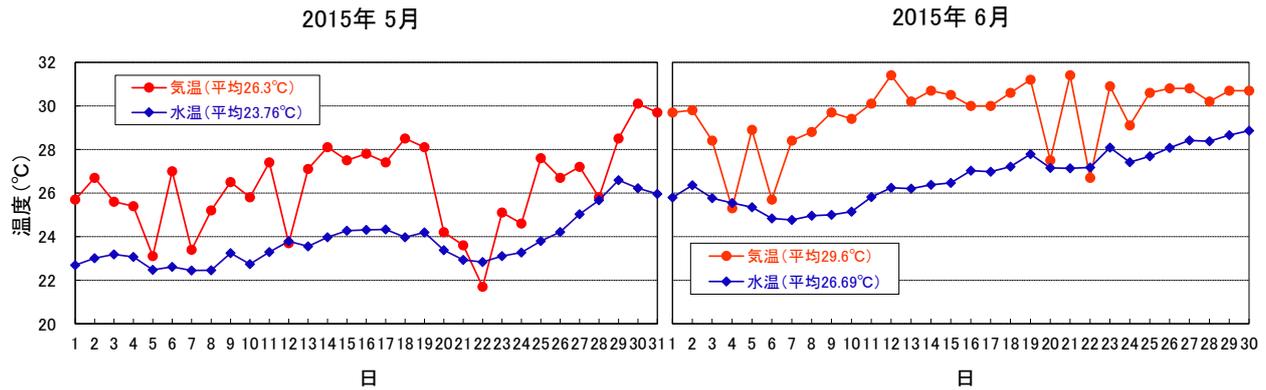
国立公園になった影響でしょうか。今年は6月からずいぶんたくさんの観光客が島を訪れているようです。にぎやかになることは、一面では島にとって良いことですが、ごみが増えたり、自然が荒らされたりするようであれば、それは大きなマイナスになるでしょう。これほど観光客が増える前からも、マジヤノハマのことを心配する島の人たちがたくさんいました。海水浴などの人たちがサンゴを蹴ったり、上に乗ったり、傷めてしまうのです。また、ウミガメを追いかけまわす人も多いようです。マジヤノハマは、大雨のときに流れ込む泥水のせいもあってか、このところサンゴの生息状況も良くなり、新しいサンゴが増えることもほとんどない状況です。このままではさんご礁がだめになってしまう可能性もある

ので、みんなで真剣に将来のための対策を考えなければならないと思います。ところで、そのマジヤノハマは、研究所の大切な調査研究の場所でもあります。今年、また一つおもしろい観察ができたので、ご紹介しましょう。

その観察とは、タマイタダキイソギンチャクの放精・放卵です。タマイタダキイソギンチャクのこと、みなさん知っているでしょうか。クマノミ類のすむ大型イソギンチャクの中で、シライトイソギンチャクとならんで、一番多い種です。主にはハマクマノミがすんでいます。シライトイソギンチャクの産卵については、以前にご報告したことがあります（アムスルだより No.117）、そこでは「最初に90個体いた幼生が4日後には1個体だけになり、それをイソギンチャクにして飼育している」と書きました。しかし残念なことに、この唯一生き残った1個体もその後死んでしまいました。それで、もう一度卵を採集して、イソギンチャクの育成に挑戦してみたいと思って、その後もたびたび夜の海でイソギンチャクが産卵しないか気にしていたのですが、ついに今年6月に産卵を見ることができました。

ある夜海に潜ると、どうもタマイタダキイソギンチャクの様子がおかしい、触手がしわしわな割に体は広がっていて、個体によっては口の部分がつきでている、これは何かあるぞ、と思いました。しば

## 定点観測



らくいくつかの個体を見て回っていると、案の定、その一つから白いけむりのようなものが出始めました。放精です。つまり、オスのイソギンチャクが精子を出し始めたのです（冒頭の写真）。となると、次はメスが卵を放つはずですが、丹念にほかのイソギンチャクを見て回ると、またいくつかが放精し、ついに卵を出している個体を見つけました。小さな卵がぱらぱらと口からこぼれ出てきます。以前にシライトイソギンチャクで観察したのと同じ様子でした。そして、いくらか卵を採集し、ほかにも放卵個体がないか探していた時のことです。ライトの光の中に妙なものが見えました。たくさんの小さな茶色い粒でできたドーナツ状のリングです。それが、ちょうどタバコの煙<sup>けむり</sup>の輪っか（‘空気砲’の煙の輪と言ったほうがわかりやすいでしょうか）のようにリングの部分が回りながら水面に浮かんでいっていたのです。こんなものは見たことがなかったので、いったいなんだろうとじっと見入ってしまいました。が、はっと、もしかしたらタマイタダキイソギンチャクの卵かもしれない、と思いつきました。それこそタバコの煙をはき出すように、イソギンチャクが一気に卵のかたまりをはき出したら、こうなるかもしれないと思ったのです。そこで、あわててリングの一部を採集しました（本当にあわてたので、残念なことに写真を撮

り忘れてしまいました）。研究所に持ち帰って、顕微鏡で見ると、やはりタマイタダキイソギンチャクから採取した卵と同じに見えます。そして、両方とも2日後にはプラヌラ幼生になって泳ぎだし、10日後には見事にイソギンチャクになりました。やっぱり、リングの粒もイソギンチャクの卵だったのです。

今回は、前のシライトイソギンチャクの時と違って幼生もほとんど死なず、今も子どものイソギンチャクが400個体ほど生きています。今度こそ、クマノミが入るくらいの大きなイソギンチャクに育てたいと思っています。

## ● 阿嘉島の海より

今年の阿嘉校のサンゴ産卵観察会は、雷警報のせいで実施できず、残念でした。実は5月の初めには、今年のウスエダミドリイシの産卵は満月よりずっと後になるのではないかと考えていたのですが、実際は全く逆で、満月の前日と当日でした。なぜ産卵が遅れると考えたかというところ、この10年間で6月の初めに満月をむかえたのは2007年の6月1日と2012年の6月4日で、それぞれ産卵は満月の6日後の6月7日と6月10日だったからです。では、どうして今年は産卵が早かったのか？水温でしょうか、日射量でしょうか。これから詳しく調べなければなりません。